ヨハネによる福音書16章

文責:政木

1．4節「わたしがあなたがたといっしょにいたから」話さなかったのはどうして？

お：じゃあ早速本文を見ていきましょう

一個目の質問から行きましょうか。１～４節までで良くわからないところはありますか

＠：参考までに１５章18節から16章4節まで繋がっているらしいです。

躓くとかも出てきましたしね

お：躓くというと具体的に言うとどんな感じなのですかね。考えてください。

　　・・・＠。

＠：主のみちをまっすぐにせよってとこから引用すると躓くっていうのは、キリストが道を正したってことでしょう。

お：ではfさん

F：印象としてはそこまで捻ってないように感じ、ほぼその通りの意味のように感じますが

お：躓くっていうワードに公式通りの意味はあるんですかね

H：ヨハネ福音書には注釈がありますね

Φ：神の信仰を疑うってことかな

う：キリストが居なくなるわけだから信者用に言ったのでは

H：結局信者って迫害されるんですかね

う：まあ隠れて過ごすことにはなるかな

お：じゃあ１番行ってみましょう。一緒にいたから話さなかったっていうのはどういうことでしょうかね。もう少し噛み砕いて説明してください。じゃあΦさん

Φ：何をはなさなかったってことをいうと信者がいずれ迫害されること。キリストは居なくなってしまうから、その時信仰してきたことに懐疑的になったとき指標を立てるためではないか。

H：キリストが神の下にいってしまうから話すということ。弟子たちはキリストがいなくなるのを悲しむから訳わかんなくならないように話しているのではないだろうか

お：一回読んだときにどういうこったと思ったんだけど水口先生、お願いします

水：16章読み終わってからもう一度考えるのがいいと思います

お：じゃあここは一回置いといて5～7節までで何かお願いします

＠：5節で誰も尋ねかったとか、わたしがいくところとかについて言ってね？15章辺りで。全く今まで言わなかったわけではないでしょう。何か含意があんのかな

お：なるほど。15章5節で確かに言ってますね。ではるいどうでした。

塁：いやあキリストの勘違いじゃないですかね

う：答えた場面上の解釈状態が違ったのではないでしょうか。今回ではキリストが死ぬフラグが立っているので、弟子たちも聞き入れる状態にあったってことじゃないでしょうか。

お：水口先生。

水：例えば氏家さんがどこかに出かけるとき当たり前ですが地上のことについていってるのだと思いますよね。でも今回キリストが神の世界、つまり次元の違う場所に言っているのですよね。弟子のキリストに対する理解は地上のことに限ってたわけです。ヨハネの中で一番重要なキリストとは何かを理解するためにこれは非常に重要な問ですね。

お：ありがとうございました。ではほかに質問等ありますか

Φ：弁護者ってなんでしょうか

お：め君

め：まあ精霊のことですかね。ふっと降りてきて神の意思を伝えるものみたいな

お：13節には真理の御霊とか書いてありますけど同じような感じじゃないですかね。助けぬし=精霊みたいな。精霊に対しズバって言えるようなことはないんですが

う：精霊は三位一体の一角を示しているわけだから神とほぼ同格の存在的な感じでしょうか

お：ありがとうございます。ほかにありますか

H：イエスが去らないと助けぬしって来ないんですかね。

＠：14章16でキリストが頼んで精霊こさせるってなってますね

お：なるほど

H：了解しました

2．8節「罪について、義について、さばきについて、世にその誤りを認めさせる」とはそれぞれどういうこと？

お：じゃあ２番行ってみましょう。8節で言われていることに対してちょっと難解だなあと思ったのですが、「裁き」について「誤り」を「認めさせる」ってワードに対しての意味を一つずつ聞きたいですね。じゃあfさんお願いします

F：9～11節じゃ足らないのか

お：もう少しお願いします

F：世っていうのはイエスを認めなかった人たちのこと。13節に真理に導き入れるってことは誤りを正すってことじゃないかな

お：Φさんお願いします

Φ：罪について。キリストを信じないことかな。それを世に対し認めさせるってことですかね。

H：精霊が直接語りかけたってことではないんですね

う：神は人の自由意志に任せている訳だから神や精霊はおだやかに気づかせるってほうが正しい

水：２章33節を引用していますと、「人々はこれで心をさされ」と書いている。聞いても関係ないよとか言う人もいるだろうが、36節で裁きについて語っている。民がキリストを裁く。つまり人が神を十字架で裁くってこと。これがどれほど愚かなことか誤りだったのかということを精霊なる神が民に気づかせている。

お：十字架っていうのは結局悪いことなのか。神の計画だったのでは。ダメなものだったんですか！？（謎のテンション）

水：ははは・・。表裏の見方がありますが、「民」が十字架で「神」をさばいたってことは間違いなく誤ってたといことですかね。

お：ほかに質問があればお願いします。・・・自分からいきます。この世を支配するものってなんでしょう

＠：サタン。原義はなんなんでしょう

う：告発するもの

水：文脈からいくとこの世を支配するものが裁かれるっていうのが誤りと書かれている。つまり！　ここで書かれている「この世を裁かれる」ものっていうのはキリストのことだったんですよ。ここでは「サタン」の意ではないですね。

お：なるほど。他にありますかね。

3．14節「御霊はわたしの栄光を現します」とはどういうこと？

お：じゃあ３番入っていきます。じゃあ考えてみましょう。るいお願います。

塁：いやあ、御霊=精霊でブワーって民にキリストの教えとかを分からせるのが栄光なんじゃないですかね（？）

お：イエスが死んで御霊が出てくるってことは復活している。神の完全さっていうのを表しているのが「栄光」って言っているのでは。

め：その前に書いてあることを考えるとやはり精霊=御霊かな、と。精霊ってのはイエスがいなくなったあと、イエスの教えを聞いて民のもとに下ったものなのでは。

お：精霊、とかハッキリした意味が決められてないんで分かりにくいですかね。＠は。

＠：わたしの栄光とは。わたしが死ぬのは皆にプラスになること。原罪を贖ったり、支配者に打ち勝ったことを精霊を通して伝えた。

お：fさん

F：人々が後で悔い改め神を信仰することが「栄光」。そして教えを伝えさせ悔い改めさせたりするのが「御霊」なのでは

お：水口先生。

水：人間にとってどうにもならないことに勝利した。一つは「罪」に対し贖うこと。二つ目は「死」。死を克服すること。この、人がどうにもできない領域に対し何らかの指標を示したことが「栄光」なのでは。罪に打ち勝つ十字架。死に打ち勝つ復活。Fさんが言ったようにこれを民に伝え悔い改めさせる働きを持っているのが「精霊」なんでしょうね。

4．25節「もはやたとえでは話さない」のはどうして？

お：時間も押してきているのでサクっといきます。何かわからないことってありますかね。

＠：21節。女が子供を産むとき苦しむとあるが、創世記で伏線が張られている。産むとき苦しませるのって罪になってんの。

う：今は創世記じゃなくヨハネだけど、ある種あるのかも。苦しんで勝ち取ったものほうが嬉しいってのはあるかな

水：幾人かの経験を聞きましたが、人が人を産むっていうのは想像を絶するほどだけど、生まれた瞬間は神の存在を信じるほど嬉しいらしいですよ。罪に対する「苦しみ」っていうのもあるけど、それを克服したときの「嬉しさ」というのが抱合せになっているんですね。ここでも言及されている訳ですが気づけた＠君は素晴らしい

＠：ありがとうございます！（何故か全員と目を合わせにくる）

お：じゃあ他に何かありますかね。なきゃ４番にいきますが。ここでたとえで話さないのはイエスに何らかの思惑があったってことなんですかね。少し待ちましょうか。じゃあΦさんお願いします。

Φ：たとえではなさないっていうのはキリストが死んだあと精霊が語りかけてきた時分からせるため。キリストから直接バシっと伝えられた訳だから。また、切羽詰まってたとえで話さなくても大丈夫だと思ったから。

H：たとえで話さずストレートに伝えることで直で語りかけてたのでは

お：今まではやんわりと感が強かったけど檄を飛ばす意味でも直で熱く語ったのでは。他に何かありますか。

＠：at last　でやっと話せるみたいな感じになってましたがキリストって弟子たちの理解の低さに呆れていたのか。

う：今まで何も伝えてなかった訳だから、やっとか（at last）という表現はまあいいんじゃないか。

5．33節「すでに世に勝った」とはどういうこと？

お：じゃあ５番行きましょうか。締めの大一番ということで気を引き締めてお願いします。考えてください。・・・じゃあるい。

塁：まあ弟子達に言うことは言ったし、原罪も贖うから大丈夫だよ的な視点で言ったんじゃない。

お：め。

め：塁っていうのも少しある。でも「既に」って表現では引っかかるなあ

＠：打ち勝つのはovercomeって書いてあるから死に打ち勝つってことじゃないかなあ。でもやっぱ「既に」って書いてあるしね。

お：水口先生どうですか。

水：結果を見ていないのに勝利宣言をしたのは普通の人じゃ無理だけど、イエスは神で、やっぱり人を超越した存在なんだってことを表している。でも地上に降り立ってきて民に教え、平安を持たせるっていうのが目的だったのではないんですかね。